



受験には“プロデュース”力

はじめての「大学入学共通テスト」が大きな混乱もなく終了しました。センター試験と比べて思ったよりも平均点が下がらなかったのは、受験生たちが十分に準備をしてきたからかもしれません。

そしていよいよ1本化されて初の公立高校入試を迎えます。今まで、「受験は自分が成長できるひとつのチャンス」ということを話してきましたが、それにはプロデュースする力が必要ということこれから説明しましょう。それぞれが持っている個性や強みを分析し、それらをアピールしていくことがプロデュースです。例えば椎名林檎さんのプロデュースの力には本当に感心します。だからこそ解散にはなってしまいましたが、東京オリンピックの開会式のプロデュース・チームの一員に選出されていたのでしょう。そして去年の紅白歌合戦の「東京事変」のステージも素晴らしかったです。バンドとしても、音楽プロデューサーでもあるベーシストの亀田誠治さんのすごい演奏を際立たせていました。

ところでイベントなどをプロデュースすることとは別に、自分をプロデュースすることをセルフプロデュースといいます。もちろん高校入試の面接や自己表現、大学入試の推薦入試やAO入試で必要な力ということはわかるでしょう。しかしその本質は、周りに売り込む方法を考えることではありません。あるべきプロデュースとは、客観視して自分を見つめ、良く理解し受け入れた上で、その延長線上に未来像を描くことなのです。本人が日頃から自分の魅力やなりたい姿を意識してみることも大切。勉強の仕方や気持ちの持つていき方もセルフプロデュースのひとつと言えるでしょう。セルフプロデュースを始めると意識する対象が「他人」ではなく「なりたい自分」になります。「今の自分自身」がどんな人間であるか、どんな状態であるかを書き出してみましょ。そして「なりたい自分」と「今の自分自身」を比べてみましょ。

この1年でガラッと変わった小6・中3・高3の受験生たちを見ってきました。今度は後に続くみなさんを応援していきます！